

図書館だより

発行：千葉市図書館 <http://www.library.city.chiba.jp>

千葉市中央図書館
千葉市中央区弁天3-7-7 043-287-3980

みやこ図書館 (233-8333)	白旗分館 (264-8566)
花見川図書館 (250-2851)	花見川団地分館 (250-5111)
稲毛図書館 (254-1845)	西都賀分館 (254-8681)
若葉図書館 (237-9361)	あすみが丘分館 (295-0200)
緑図書館 (293-5080)	土気図書室 (294-1666)
美浜図書館 (277-3003)	打瀬分館 (272-4646)
移動図書館 (287-3983)	

【特集】体験・見学—図書館の仕事【3面】

- ・ 児童文学講座が開催されました【2面】
- ・ 若葉図書館泉分館開館について【4面】

大盛況！「著者を囲む会」 重松 清さんを迎えて



講演中の重松 清さん

平成17年12月11日(日)、「著者を囲む会」を開催しました。
今年度は、作家の重松清さんをお迎えして、「言葉の力を信じて」と題した講演をお願いしました。

重松清さんは、2000年度下半期に『ビタミンF』で第124回直木賞を受賞し、精力的に執筆活動が続けています。家族の日常の姿を描く中で、幸せの意味や一人一人の幸せの形をさりげなく考えさせる巧み

な小説は、幅広い読者に支持されていて、最近では『その日の前に』『きみの友だち』などの著書が好評を博しています。

90分間の講演は、重松さんの体験を踏まえたお話が中心でした。子どもの頃、休日に家族4人で出かけ、集合時間を決めて、それぞれが好きなお話で好きなように過ごしたときのこと。重松さんはいつも本屋さんで1日を過ごしたそうです。1日かけて、「買ってもらう1冊の本」を吟味し、「この1冊」を決めたということです。本を選ぶ過程や、本に対する思い入れや思い出、本との出会い等、ゆっくりと言葉を選びながらのお話は、時にユーモアを交えながら、楽しく、しかもわかりやすく、約300名の参加者は、笑ったりうなずいたりしながら聞き入っていました。

- 温かいお人柄が言葉から伝わってきました。
- 本のもつ力や素晴らしさを再認識できたお話でした。
- 私も、肉筆のメッセージを誰かに送ることができる人間でいたいと思います。
- 重松さんのお人柄に触れて、柔軟性ある眼差しに共感し温かい気持ちに満たされました。

「子ども読書講座」開催

平成17年12月3日に、生涯学習センター大研修室にて「科学の本に親しむ子ども読書講座」を実施しました。

この講座は、子どもが読書活動により言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力をも身につけていくことを目的に開催しました。

近年、テレビ、ビデオ、ラジオ、インターネット、携帯電話その他の様々な情報メディアの発達・普及により、子どもの「読書離れ」が指摘されています。このような中、国会で「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に公布・施行されました。この法律に基づき国は平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を、千葉県は平成15年3月に「千葉県子ども読書活動推進計画」を作成しました。千葉市では、これらの計画を踏まえて、平成16年3月に子ども読書活動に関する5年間にわたる施策の方向性や具体的な取り組みを示した「千葉市子ども読書活動推進計画」を作成しました。以後、この計画に基づいて様々な施策を実施しています。今回の「科学の本に親しむ子ども読書講座」は、この計画の4つの柱の中の1つである「子どもの読書活動に関する理解と関心の普及」のための啓発活動の一環として実施しました。この講座は、簡単な科学の実験を通して親子で科学の本の楽しさを知ってもらおうというもので、小学生とその保護者を対象に実施しました。

- ① 偏光板を使って光の不思議な性質を見るもの、
- ② コロイド粒子を使ってゾル状態とゲル状態の転移をみるもの、
- ③ 樹木の種子がゆっくりと降下する仕組みを見るもの、の3つです。
- ②と③は、受講者に実験材料を配り、各自で組み立てて実験しました。

また、各実験それぞれを詳しく説明した小学生向けの本の紹介も行いました。
参加した小学生は、飽きることなく講師の話と実験に熱中していました。



講師(杉山清志さん)講義中の会場

中央図書館のページ

児童文学講座が開催されました

開館以来5回目となる「児童文学講座」が、1月13日・20日・27日に行われました。平成17年度は、アンデルセン生誕200年にちなんで、3人の北欧児童文学作家について池田正孝氏に語っていただきました。池田氏は20年以上にわたり世界各地の児童文学の地を訪ねては写真に撮り続けていて、スライドにした写真を映し出しながら、作家の生家やゆかりの地、作品の舞台となった風景や建物について丁寧に解説して下さいました。特別に許可を得て撮影した、本来なら撮影禁止の施設や肖像などの貴重な写真もありました。講座終了後、早速本を借りていかれる参加者もいました。来年度もまた「児童文学講座」を実施しますので、ぜひご参加ください。

◆ハンス・クリスチャン・アンデルセン (13日実施)

童話の王様と呼ばれるアンデルセンは、生涯に約160編の童話を残しました。旅行好きで作品の舞台は北欧ばかりでなく、ギリシャやトルコにまで及んでいます。これは当時としてはとても珍しいことだそうですね。上流階級に強い憧れを抱いていましたが、それに反発する気持ちも作品に表れていて、『ヒナギク』では「バラやチューリップなど華やかな花たちはずましてそっくり返っているが、太陽は小さな野の花にも分け隔てなく陽を注いでいる。」と書いています。作家自身の様々な思いを作品につき込んでいるので、それを感じながら読んでほしいと池田氏はおっしゃいました。

◆セルマ・ラーゲルレーヴ (20日実施)

スウェーデンの裕福な家庭に生まれましたが、父の

死後莊園を手放さなければならなくなりました。しかし彼女の小説が認められ、その後の功績によって、スウェーデン人初、そして女性初のノーベル文学賞を受賞し、家を買戻すことができました。国民はラーゲルレーヴを尊敬していて、国内のあちこちに彼女の銅像があるそうです。著書の『ニルスのふしぎな旅』は、いたずら好きな少年がトムテという妖精に小人にされ、ガチョウのモルテンと一緒に雁の渡りに加わることで、良い行いをして成長していく物語です。日本のガチョウと比べて体格ががっしりしていることを挙げ、「このガチョウなら長距離も飛べるかもしれない」とのお話に参加者もうなずいていました。

◆アストリッド・リンドグレン (27日実施)

スウェーデンを代表する、最も人気のある女流児童文学作家の一人です。

故郷のヴィンメルビイには「アストリッド・リンドグレン・ワールド」があり、『長くつ下のピッピ』のごたごた荘や、『やかまし村』の北・中・南の家など、作品に登場する建物が再現されているそうです。その家は子どもしか入れないような小さなもので、写真には、登場人物のように2階の窓から出入りする子どもたちの楽しそうな姿が写っていました。

参加者の声

・スライドを見ながらのお話は、わかりやすく面白かったです。
・作品の舞台となった場所を写真でたどり、一緒に旅した気持ちになりました。



講師の池田正孝氏

利用者サービスあれこれ

○DVDの視聴・貸出利用について

平成17年10月から利用を開始したDVDについては、3ヶ月が経過し、所蔵点数は国内外の映画を中心に、ほぼ5000点を数え、視聴・貸出利用とも定着しつつあります。DVDはビデオに比べ、画像・音質ともに劣化が少なく、映像が鮮明です。



また、言語・字幕を自由に選ぶことができますので、語学を勉強中の方、耳の不自由な方にも楽しんでいただけます。中央図書館にはDVDを見られる視聴ブースもありますのでぜひご利用ください。ただ、キズがつきやすい資料ですので、多くの方に末永くご利用いただくために、慎重にお取り扱いいただけますよう、ご協力お願いします。

人気作品紹介

『マイ・フェア・レディ』『全国百線鉄道の旅』『蟬しぐれ』『スパイダーマン』『ボディガード』

企画展示のご案内

1階展示コーナーでは3月15日(水)まで、「恐竜の世界」をテーマに、恐竜について書かれた本や資料を展示して紹介しています。

3月17日(金)からは「花の都・ちば(仮題)」についてとり上げる予定です。

また、1階文庫コーナーでは、「エコライフをめざして」をテーマに、エコライフや地球環境に関する本や資料を揃えて貸出しています。ぜひお立ち寄り、ご覧ください。

[3月15日までの企画展示]



1階展示コーナー



1階文庫コーナー

地区図書館&分館のページ【特集】体験・見学—図書館の仕事

みやこ図書館

☆もつとやりたい！「子ども一日図書館員」

昨年夏の夏休みに、36人も小学3年生が、「子ども一日図書館員」に参加しました。参加人数は、7月22日(金)が21人(午前14人、午後7人)、7月27日(水)が15人(午前8人、午後7人)でした。子どもたちは、館内見学の後、エプロンをかけ、はりきって仕事にのぞみました。カウンターでの本の貸出・返却、書架整理、本のカバーかけを体験し、充実した時間を過ごしました。

一日図書館員に参加した子どものお母さんから、「娘は、またやりたいよ。図書館って私の知らない所がいっぱいあるんだよね。どうれしい感想をたくさん述べておりました。」との手紙をいただきました。

今後、こうした体験を通じて、図書館のことをより多く知ってもらいたいと思います。



若葉図書館

☆図書館の体験学習

当館では中学生の職場体験学習を受け入れています。日程は学校によって1〜4日間と様々です。その中で生徒たちには資料配架や、貸出・返却業務など、地域の方々と直接触れ合う仕事を体験してもらいました。生徒たちは初めての仕事に緊張しながらも、いきいきと一生懸命図書館業務に取り組んでいました。この貴重な経験と感動を今後の学習に役立てていただきたいと思えます。

生徒たちからは、「簡単そうに見えても、意外と難しかった。」

○図書館の仕事は本に関することだけでなく、利用者へのサービスも大切だということがわかった等の感想が寄せられています。

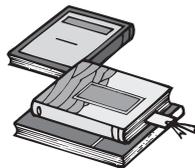


花見川図書館

☆花見川図書館と職場体験

「適性」本に興味を持つていること、物事に対する持続性を持つていること」昨年、花見川図書館で体験学習をした小学生2年生は、本にブックカバーをかけた苦労や利用者笑顔で接する大切さの感想と共に、報告書にこう書いてくれました。

中学生の職場体験受入れは平成13年度から始まり、一度に10人以上のときもありましたが、現在は3〜4人程度、3日間が基本です。短い期間の体験ですが、図書館のシステムやサービス網について理解し、本の整理や修理などの作業、資料を選ぶために必要な研修など、図書館の仕事に目を向け、より深く知ってほしいことは、職員にとっても大きな喜びです。利用者のご理解と「がんばってね」の声に励まされ、平成17年度は本館と分館で近隣5校の生徒12人が図書館の仕事を経験しました。



緑図書館

☆中・高校生の職場体験学習

緑図書館は近隣の小・中学校との連携が盛んで、図書館見学、まち探検、調べ学習や職場体験等、たくさんの子どもたちが来館します。

今回は、中・高校生の「職場体験学習」をご紹介します。

学習のねらいは、図書館の役割と仕事の大切さを知ってもらい、将来、社会の一員として幸福な生活を築いてほしいと願うものです。

子どもたちは、窓口業務や配架作業、図書の修理などを体験し「言葉づかいが難しい」「ありがたう」と言われて嬉しかった。「仕事が多くて驚いた」など、学校生活活との違いを新鮮に感じているようでした。

これからの各種の事業を積極的に受け入れ、学校との連携を深めていきたいと思えます。



稲毛図書館

☆高校生の体験学習(インターシップ)

「高校生インターシップ推進事業」として、千葉女子高校の生徒を受け入れました。

「あの日学んだ数々の教訓は、今の私の日常生活や将来について考える大きな力となっています。」
 「社会のルールやマナー、そして人と人とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。」
 「私の進路決定の材料として大いに活用していきたい。」
 「図書館司書になりたいという思いが強くなりました。」
 「将来図書館で働きたいという気持ちが強くなった。」などの感想がありました。一日だけの体験でしたが、生徒たちの学習意欲を喚起するとともに主体的な職業選択能力や高い職業意識を育成するという事業の目的達成に役立つことを願っています。



美浜図書館

☆中学生職場体験

今年度、美浜図書館と打瀬分館では、近隣中学校3校の生徒7人を合計8日間受け入れました。生徒は、「本が好きだから図書館を希望した」と言います。いろいろな本に囲まれる喜びを味わいたいということでしょうか。実習終了後は、「カウンター内では、とても緊張した。でも、時折『頑張って！』と利用者から声をかけてもらったことが大変嬉しかった。」と感想を述べています。

また、「体力と記憶力に優れた人に向いている仕事」と評していました。わずか数日間でしたが、利用者の方に喜んでもらえた、役に立てたという経験が、働く喜びとやりがいを見つけていくことにつながることを期待したいと思います。



レファレンス事例 ⑧

大正11年4月生まれだが、当時の新聞記事を読みたい。また、大正時代のニュースや世相がわかる資料があれば、あわせて読んでみたい。

1922年(大正11年)4月の新聞は、『朝日新聞(復刻版)』で、ご覧になることができます。復刻版は、明治21年7月から読むことができます。現在順次刊行されておりますが一部未刊部分もあります。

また、大正時代の世相を知るには、『大正ニュース事典』(毎日コミュニケーションズ)が、大正の写真資料や大正時代に創刊された新聞・雑誌の表紙写真、復刻の「記事・挿絵で見る主な出来事」「広告で見る大正」などを掲載しており、目で見て楽しむことができます。なお、「明治」「昭和」のニュース事典もあり、それぞれの時代の特徴を知ることができます。

各新聞社の記事を比較したい場合は、『新聞収録大正史』(大正出版)が、全国の新聞から重要記事だけでなく、市井の雑事もとりあげ、新聞広告も収録しております。さらに、『号外(大正史)』(大空社)は、官報を含む全国新聞の「号外」だけを集めており、その時代の世相を端的に伝える資料といえます。

「新聞」は、時代を映す鏡でもあります。ご自分の生まれた年代の新聞記事や広告、挿絵などの関連資料から、その時代を読むということもなかなか興味深いことでしょう。



中央図書館内の施設

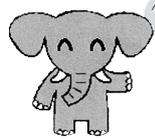
「グループ研修室・グループ学習室について」

前回までは、中央図書館内の自習室と研究個室を取り上げました。今回は、グループ研修室とグループ学習室についてご案内します。

グループ研修室は、高校生を除く18歳以上の市民(在勤・在学含む)のグループが図書館の資料を用いて研修をするための施設です。会議や集会には使えません。A(9時30分~13時)・B(13時30分~17時)・C(17時30分~21時平日のみ)の時間帯でご利用いただけます。電話等での申込みはできません。1ヶ月前からの先着順で、児童書研究カウンターで受け付けています。

グループ学習室は、中学生以上の市民(在学・在勤含む)が2人以上のグループで、図書館の資料を用い、共同で学習するための施設です。自習はできません。利用時間は原則2時間です。当日申込みのみで、ヤングアダルトカウンターで受け付けています。詳しくは、職員にお尋ねください。

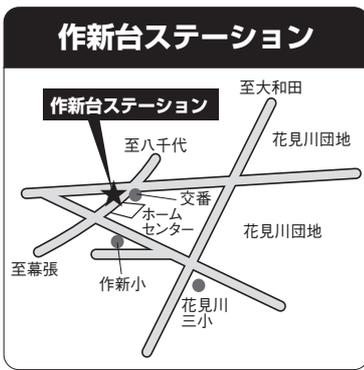
ダンボの耳《図書館Q&A》



移動図書館車『いずみ号』⑧

作新台ステーションを紹介いたします。場所は千葉北警察署作新台交番の隣りです。第1・第3土曜日の午前10時40分から11時20分まで開館していますので、どうぞお気軽にご利用ください。

1月から移動図書館車が新しく変わりました。新「いずみ号」を、これからもどうぞよろしく願います。



おすすめの本(話題の本)

「使えるレファ本150選」ちくま新書

日垣隆 著(筑摩書房)

この図書館だよりを手に行っている方は、「レファレンス」という言葉をご存知でしょう。このページの上段にも「レファレンス事例」が載っていますが、図書館用語で、簡単に言えば、「よろず調べ物のお手伝い」。「日本の参考図書」を筆頭に、図書の内容を解説した本が出ていますが、今回ご紹介するのは、読み物としても面白く、入手しやすいものを掲載しており、用はなくても、ちょっと見てみたくなります。

インターネットの発達で調べ方も変わってきていますが、本書中「日本統計年鑑」の項での「検索して、ありました」と、データ部分だけ送ってくる部下に対する言及などを読むと、情報を取り扱い発信することの大事さについても改めて考えさせられます。



3月25日(土曜日)オープン! 若葉図書館泉分館

3月25日(土曜日)、若葉区野呂町に地域の生涯学習の拠点となる白井公民館と若葉図書館泉分館がオープンします。

吹き抜けで開放感を演出した若葉図書館泉分館の館内では、静かな環境で読書を楽しむことができます。

- 開館時間 午前9時~午後5時
- 休館日 毎週月曜日、図書整理日(第3木曜日、ただし祝日の場合は翌日)、国民の祝日(月曜日が祝日にあたるときは翌日)、5月4日、年末年始、特別整理期間。



若葉図書館泉分館